



左:バトニングで細い木片をつくります
中:どんぐりをひろって…
右:木の実や葉っぱで顔をつくります



「ありもの」で、
たのしみを創り出す



かまどに火が入りました



ピザをつくるよ



薪ストーブでボトフを煮込んでます

ちょこっと インタビュー

（Field B 代表）

今年3回実施され、親子連れでにぎわった「なみきみちデイキャンプ」。かやぶき民家をメイン会場に、みんなでカレーを作ったり、かまどでピザを焼いて、いちにちだけの野外体験を楽しむものだ。講師をつとめるのは臼井さん。さてはかなりのアウトドア達人?と聞くと「いやいや、実はそんなことはなくて」と、この活動を始めた経緯を教えてくれた。

臼井さんは丹波市出身。高校卒業後、地元の化学系工場に19年働いたあと「そろそろ違うことをしたいな」と退職。そして、前から気になっていた『バーベキュー検定』なるものを取りにしたそう。「Youtubeでバーベキュー料理の動画なんかは見ていました」と、はにかむ。小学生のころは「まあ、森に入って探検ごっこみたいなものはしてたんですけどね。でも中学校からはもっぱらゲームで遊んで。それからもアウトドア!とかではなくて」。なんとなく楽しそうだなとおもって

バーベキュー検定を取るところまで考えるのが、臼井さんの行動力のすごさ。そんなとき知り合いに「じゃ、うちで働かない?」と声をかけられて行った先が、悠遊の森のレストラン「ベル・ピーマン」だった。「気が付いたら、経験がないのにいきなり店長になっていて(笑)。そこでハンバーガーなんかを作っていました」と、これまたさらりと教えてくれた。

臼井さん、なんでもできちゃう人ですね!というと「いや、やり始めてから、あ、自分で器用やったんやって気が付きました」とともなげに言うから面白い。実は氷上高校の食品加工科卒の臼井さん。勤めた化学工場は「食品とは関係ない」仕事だったが、「道具の置き方ひとつ、段取りの組み立て方、どうやったら失敗せずに製品が作れるかはその工場で体得したかも」と振り返る。工場ではスタッフ1人が釜ひとつ(0.5~5トン)を担当し、化学溶剤などを混ぜながら、合成皮革や塗料の元となる樹脂を生成させていく。「基本レシピ」はあるが、一定の品質に仕上げるために、その日の湿度などに応じた薬剤の添付量調整も必要になる。しかし料理と違うのは、やり直しがきかないこと。溶剤を釜に

入れて化学反応が始まってしまうと、化学反応が終わるまでは時間の勝負だ。釜の中の樹脂の「粘り気」をみるためのメーターとにらめっこしながら、攪拌を止めるタイミングを見計らう。「万が一、失敗するとひとつの釜がすべてダメになる。だから事前にしっかり下準備をして作業にのぞむんです」。

臼井さんの「本業」は、実は屋外イベントでハンバーガーを販売すること。屋号のField Bの「B」は、Hamburgerの「B」でもあり、バーベキュー(BBQ)の「B」でもある。「ほかにも、ブライダル/Bridal(こんかつinTAMBA主催の婚活イベント)、ベーカー/Baker(ハンバーガーのパンを市内のパン工房“ら・ぱん工房”で作る)、ブッシュクラフト/Bushcraft(森の中で暮らすための火おこし技術など)、ボードゲーム(Board game)、と、どんどん活動の幅は広がっているんです。しかも全部“B”が付きます(笑)」。今回の「ピザづくり」も、「かまどがあったんで、できるかな?と思って」と、柔軟に「ありもの」を組み合わせて、その場で楽しみを創り出してしまった臼井さん。また来年は違う挑戦を考えているそう。どんなプログラムができるのか?ぜひ、期待したい。